

都道府県名	秋 田 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	秋田市立飯島中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数 3 1
学級数	6	5	5	0	1 6	
生徒数	1 6 8	1 7 3	1 9 7	0	5 3 8	

研究の概要

1 研究主題

「豊かな人間性と確かな学びの力をもつ生徒の育成」

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

2～3年数学科(生徒の理解度に差がでやすい教科であるため)

- ・2年.....2C3T, 1C2Tによる習熟度別少人数指導
- ・3年.....1C2TによるTT指導

2～3年英語科(コース別学習や個に応じた指導等の充実を図るため)

- ・2年.....2C3T, 1C2Tによる習熟度別少人数指導
- ・3年.....1C2TによるTT指導

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 「豊かな人間性と確かな学びの力をもつ生徒の育成」</p> <p>仮説 一人一人の考えや思いを大切にす分りやすく楽しい学習の中で、個を生かす多様な指導の手立てを講ずることにより、望ましい豊かな人間関係の学習集団が形成され、生徒は学ぶ喜びを体得し、確かな学びの力が育成されるであろう。</p> <p>研究内容・方法 研究テーマ設定および研究推進の在り方の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通した研究推進の見通し ・確かな学力に関する理論研究 ・生徒の学習状況調査、学習に対する意識調査の実施および考察 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導、TT指導などの在り方 ・学習相談の実施 ・評価に関する研究 基礎・基本の定着を図る学習指導の在り方 <ul style="list-style-type: none"> ・各教科における指導方法の工夫 ・ドリル学習、家庭学習への支援 学習の意欲付け、望ましい学習習慣の確立 学区域内の小学校との連携 1年次の研究のまとめと、次年度に向けた研究の方向性の検討 </p>
----------------	--

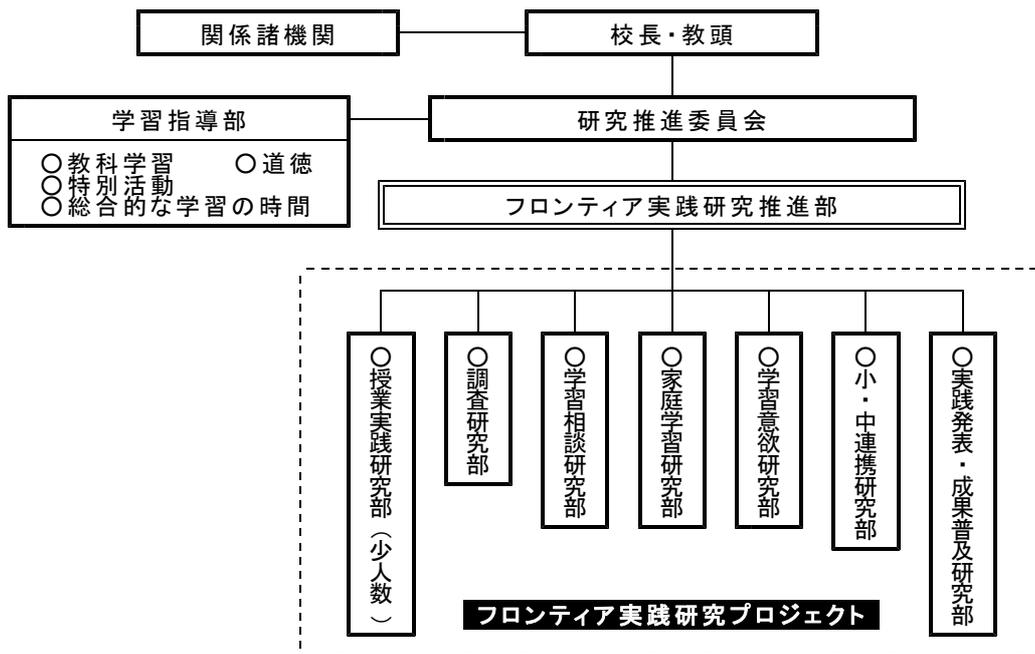
平成 15 年度	<p>テーマ 「豊かな人間性と確かな学びの力をもつ生徒の育成」 ～少人数指導・TT指導を中心に～</p> <p>仮説 一人一人の考えや思いを大切にす分りやすく楽しい学習の中で、個を生かす多様な指導の手立てを講ずることにより、望ましい豊かな人間関係の学習集団が形成され、生徒は学ぶ喜びを体得し、確かな学びの力が育成されるであろう。</p>
----------------	--

	<p>研究内容・方法</p> <p>個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導，TT指導の在り方を重点的に研究し，その成果を他教科へ及ぼしていく。 ・表現力の育成を図るため，外部講師による多様な選択教科のコース開設を行う。 <p>基礎・基本の定着を図る学習指導の在り方</p> <p>学習の意欲付け，望ましい学習習慣の確立</p> <p>2年次の研究のまとめと次年度に向けた研究の方向性の検討</p> <p>研究主題及び仮説の修正</p> <p>授業研究会の実施等，域内への研究の普及</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ 「豊かな人間性と確かな学びの力をもつ生徒の育成」</p> <p>仮説</p> <p>一人一人の考えや思いを大切にす分かりやすく楽しい学習の中で，個を生かす多様な指導の手立てを講ずることにより，望ましい豊かな人間関係の学習集団が形成され，生徒は学ぶ喜びを体得し，確かな学びの力が育成されるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫</p> <p>基礎・基本の定着を図る学習指導の在り方</p> <p>学校と家庭の学習の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の向上を図る具体的な手立ての確立 ・校内外における学習環境づくり <p>研究のまとめ</p> <p>仮説の検証と研究の評価</p> <p>授業研究会の実施等，域内への研究の普及</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

全校体制の研究を推進していくために，研究推進委員会を中心に，研究全体にかかわる計画を立案する。また，学力向上フロンティア事業推進に当たり全校体制の実践研究がとれるよう「フロンティア実践研究推進部」を組織に位置付け，そのプロジェクトの各部門の実践研究の成果を実践研究全体に生かしていく。



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

(1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫

個を生かす多様な指導の手立てとしての少人数学習

今年度は、個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫として、少人数指導の在り方を重点的に研究し、その成果を他教科へ及ぼしていくこととした。特に2学年で行った英語、数学の習熟の程度に応じた少人数指導(2C3T, 1C2T)を実践研究の柱として、きめ細かな指導を行ってきた。

学習状況調査(秋田県)

2年数学の県学習状況調査(平成14年7月,平成15年7月実施)の教科合計の平均通過率を比較すると、平成14年度47.8%,平成15年度48.6%と0.8%通過率の向上が見られた。また、平成14年度1年生数学の平均通過率63.9%(県平均66.5%),平成15年度48.6%(県平均51.0%)と、県平均を下回るものの、通過率の差が0.2%に縮まった。以下は、同調査の同一内容の問題の通過率を表した表であるが、数学では、一般的に通過率が向上しており、英語においては、「英文作成」「英文の読解」の設問で通過率の向上が見られた。

【平成14年度,平成15年度県学習状況調査における同一内容の設問の通過率】

<第2学年 数学>

設問内容	H14通過率	H15通過率
・四則計算 - $4 + 2 \times (-3)$	74.3%	85.0%
・1次方程式の立式	54.3%	72.0%
・角の二等分線の作図	48.6%	65.0%
・回転体の見取り図	62.9%	89.0%
・回転体の体積	40.0%	49.0%
・比例の式	20.0%	21.0%
・比例の式, グラフの活用	22.9%	54.0%

<第2学年 英語>

設問内容	H14通過率	H15通過率
・英文作成(絵を参考にした対話文)	9.1%	33.0%
・英文の読解(内容に合う英文の選択)	58.2%	59.0%
・英文の読解(内容に合う語の選択)	58.2%	70.0%

基礎学力調査(秋田市) 第2学年の数学・英語調査から

図1~2は、児童生徒の学力の実態や問題点等を把握するために行っている市基礎学力調査(平成14年11月,平成15年11月実施)における観点別の通過率の変容を示したものである。数学では、「見方・考え方」「表現・処理」の観点で、英語では「表現」の観点で通過率の向上が見られた。また、領域別では、数学の「図形」(平成14年度35.1%,平成15年度52.2%),英語の「聞く」(平成14年度77.9%,平成15年度86.0%),英語の「話す」(平成14年度56.8%,平成15年度72.5%)で通過率の向上があった。

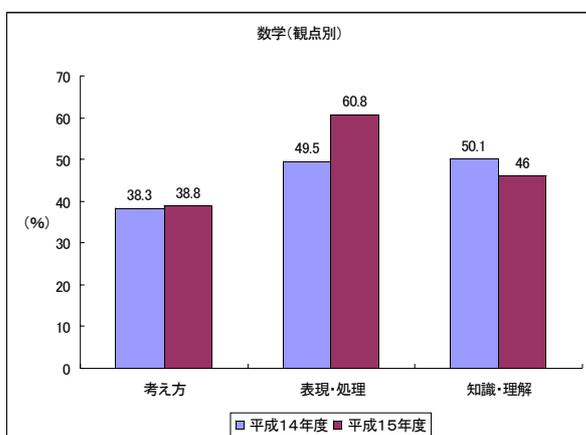


図 1

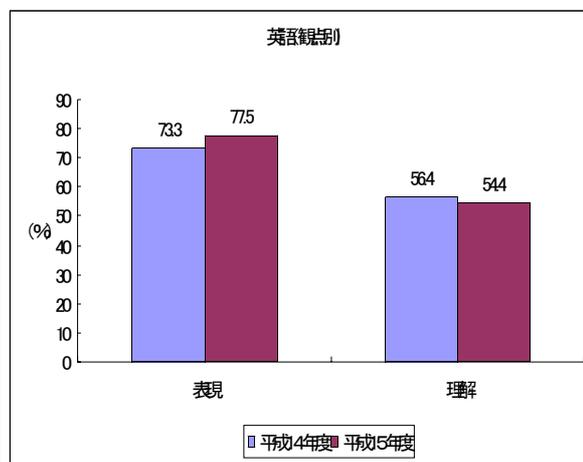


図 2

< 習熟の程度に応じた少人数指導（2年数学） > 生徒の側面 指導者の側面

昨年まで発表することのなかった生徒が発表するようになった。
 授業を引っ張っていくリーダーが育った。
 気軽に質問する生徒が増えた。
 習熟の程度に応じた少人数学習をよかったと感じている生徒が増えた。
 課題追究の場面で、分からないで悩んでいる生徒が、分かる生徒に聞いたり、
 教えてもらったりし、教え合いの場面が多くなった。
 個々の生徒に目がよく行き届き、理解度やつまずきなどが把握でき、机間指
 導を通して、その都度生徒に対応することができた。
 生徒との距離が近く、意思の疎通が図られた。

以上のように、習熟の程度に応じた少人数指導を通して、一人一人が考える時
 間と自分の考えを発表する場を十分に保障し、それを細かく見取ることによって、
 生徒一人一人が主体的に授業に参加し、全員で学習を練り上げていく授業が展開
 できるようになった。同時に、生徒は意欲的に学習に取り組むようになり、基礎
 ・基本の定着が図られた。

< 習熟の程度に応じた少人数指導（2年英語） > 生徒の側面 指導者の側面

生徒は自分に適したコースを選ぶことができる。基礎コースでは自分のペー
 スで学習が進められるという安心感が生まれ、応用コースではより高いレベ
 ルの問題に取り組もうという向上心が見られた。
 各クラスでは授業を引っ張っていく新たな学習のリーダーが育ちつつある。
 個々の生徒によく目が行き届き、理解度やつまずきなどがよく把握できた。
 また、それに合った授業（教材づくりなども含む）が展開できた。
 英語科少人数教室が整備されつつあり、生徒のレポートの掲示を行い、学習
 の成果を認めることによって、英語学習への意欲を高めることができた。
 ・学習の状況の分かる掲示物 ・生徒のレポートの掲示
 ・英語に関する書籍、辞書の設置

以上のように、習熟の程度に応じて学習活動を工夫することにより、生徒の英
 語学習への意欲を高めることができた。また、生徒一人一人がねらいとする目標
 の達成を支援するためにきめ細かな指導を展開することにより、基礎・基本の定
 着を図ることができた。

(2) 分かりやすく楽しい授業

今年度は、全教科において「確かな学力」の向上に向けて、「基礎・基本の
 確実な定着」「評価を生かした指導の在り方」「学習意欲の向上、望ましい学
 習習慣の確立」を重点事項とし、各教科で「分かる授業」「楽しい授業」の実
 現に向けて、具体的な方策を立てて実践してきた。以下の図は、第2学年にお
 ける県学習状況調査（平成15年7月実施）の学習意欲に関する調査と、11
 月に同調査を再調査した結果である。調査する時期による影響も考えられるが、
 同調査を11月に再び行ったところ、7月調査より良好な傾向（図3～5）が
 見られた。また、少人数学習に関する生徒に対するアンケートでは、「通常の
 学級での学習より分かりやすい」、「自分にあったコースを選択できた」（図6）
 などの結果がみられ、習熟の程度に応じた学習のよさを感じている。

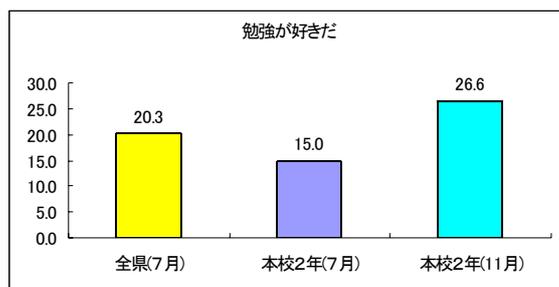


図 3

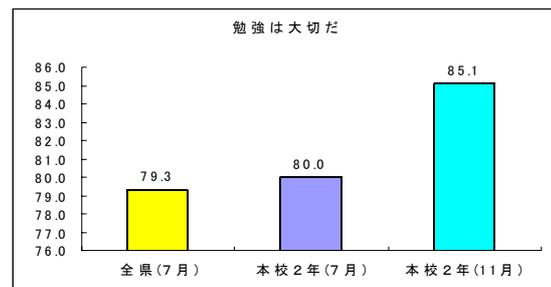


図 4

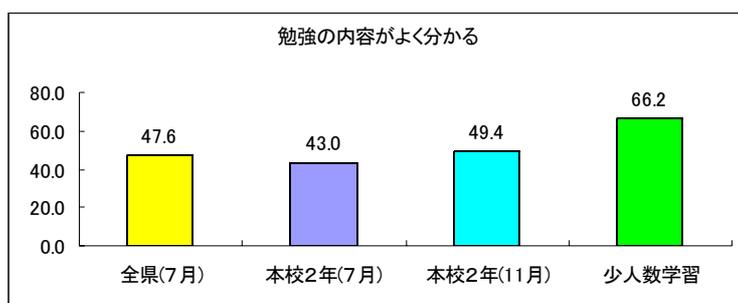


図 5



図 6

2 今後の課題

(1) 個を生かす多様な指導の手立てとしての少人数指導

2年数学科，英語科における全時間，全クラスにおける習熟の程度に応じた少人数指導は，今年度から始めたものであるが，以下のような課題の改善を図り，次年度も引き続き，習熟の程度に応じた少人数指導を通して，個を生かすきめ細かな指導を行っていきたい。

< 習熟の程度に応じた少人数指導 (2年数学) > 生徒の側面 指導者の側面

- a. 習熟の程度に応じた少人数指導から
 基礎コースで理解度に個人差が大きい。
 少人数の授業を行っても意欲を高めることのできない生徒に対する特別な手立てが必要である。
 基礎コースではいろいろな見方や考え方に触れたり，練り合ったりする場がなかなかもない。
 単元テストや単元のスタートを合わせるための時間調整のため，授業が遅れがちになる。
 学習の状況の分かる掲示物や，数学に関する書籍の設置など，数学教室の環境の一層の充実が必要である。
- b. 習熟の程度に応じない等質集団での少人数指導から
 早くできた生徒の中には，友達に教えてあげたり，他の問題に取り組んだりしている生徒もいたが，時間をもてあましていた生徒もいた。
 習熟の程度に応じた少人数学習のときよりも，充実しなかったと感じた生徒が増えた。そのため，習熟の程度に応じた少人数学習の方が学習活動の効率もよく，メリットが大きいと感じた。

< 習熟の程度に応じた少人数指導 (2年英語) >

基礎コースでは理解度に個人差が大きい。
 基礎コースではいろいろな表現に触れたり，学び合ったりする場が少ない。
 英語では単元数が多いため，単元テストとその後の補完的な学習の時間が多くなり，進捗が遅れがちであった。また，単元テストをどのクラスも同じ時間に設定することが困難である。
 基礎コースの進捗が計画以上に遅れてしまう。また，生徒に対する指示や指導に時間がとられがちであった。

(2) 分かりやすく，楽しい授業の在り方

学習意欲の向上を重視し、主体的に学習に取り組む姿勢を育てる「分かる授業」「楽しい授業」の実現を図るためには、次の を課題とし、次年度の研究に当たっていききたい。

授業改善を通しての学習意欲の向上を目指す手立ての確立について
すべての教科にわたり、意欲をもって生徒が主体的に学習活動へ取り組めるよう
単位時間の学習の時間の中で、a～dの具体的な手立てをもとに授業改善に当たる。

- | | |
|-------------------|------------------|
| a 単位時間の学習のねらいの明確化 | b 学習課題の提示の工夫 |
| c きめ細かな個への支援の在り方 | d 次時の学習へ結び付く補助課題 |

学習意欲の向上を目指した全校体制の実践研究について

本校は本年度から教科での実践研究の他に、全校体制で学力向上の推進に当たる校内研究体制（学力向上推進プロジェクト）を設置してきた。その中で、学習意欲を高めるために生徒活動の側面から考えていこうとする部門（学習意欲研究部）を設け、研究を進めている。部活動、生徒会活動と学習活動の相互の関係をうまく機能させ、学習意欲の向上を図るというものであるが、次年度も引き続き、実践研究を推進していく。また、各教科及び各学年においても望ましい学習習慣の確立を目指す日常の継続的な指導を重視し、学習意欲の向上を目指していききたい。

学力把握のための学校としての取組

学習状況調査、CRTなど標準的な学習調査をもとにその変容をとらえ、研究推進の修正、改善に当たる。（生徒の学習状況の陥没点に関する補強対策など）

教科学習における単元テストや、定期テストの効果的な活用。
学習状況に関する生徒意識調査の実施と活用

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1 地区内における実践研究の成果の普及

近隣の小・中学校を対象とした授業研究会の実施

フロンティア校どうしの授業研究会・連絡協議会の実施

- ・ 7月17日（木）数学、英語科授業研究会
＜秋田市教育委員会学校訪問（要請訪問）＞
- ・ 10月21日（火）秋田市教育委員会学校訪問（計画訪問）
- ・ 11月 5日（水）学力向上フロンティア研究会（英語科・数学科）
参加者：数学部会51名 英語部会52名
指導者・来賓13名 本校職員33名 計149名

2 自校のホームページを活用した実践研究の紹介（平成14年度～16年度）

フロンティアスクールとしての実践研究を広く知って欲しいと考え、ホームページを活用することとした。平成14年度の実践報告および、本年度の実践、公開授業研究会開催の案内など、本校の実践研究の概要が分かるように下記URLで公開している。

《 <http://www.edu.city.akita.akita.jp/~ij-c/index.htm> 》

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	TTによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	